白鷺かぶと
五十七

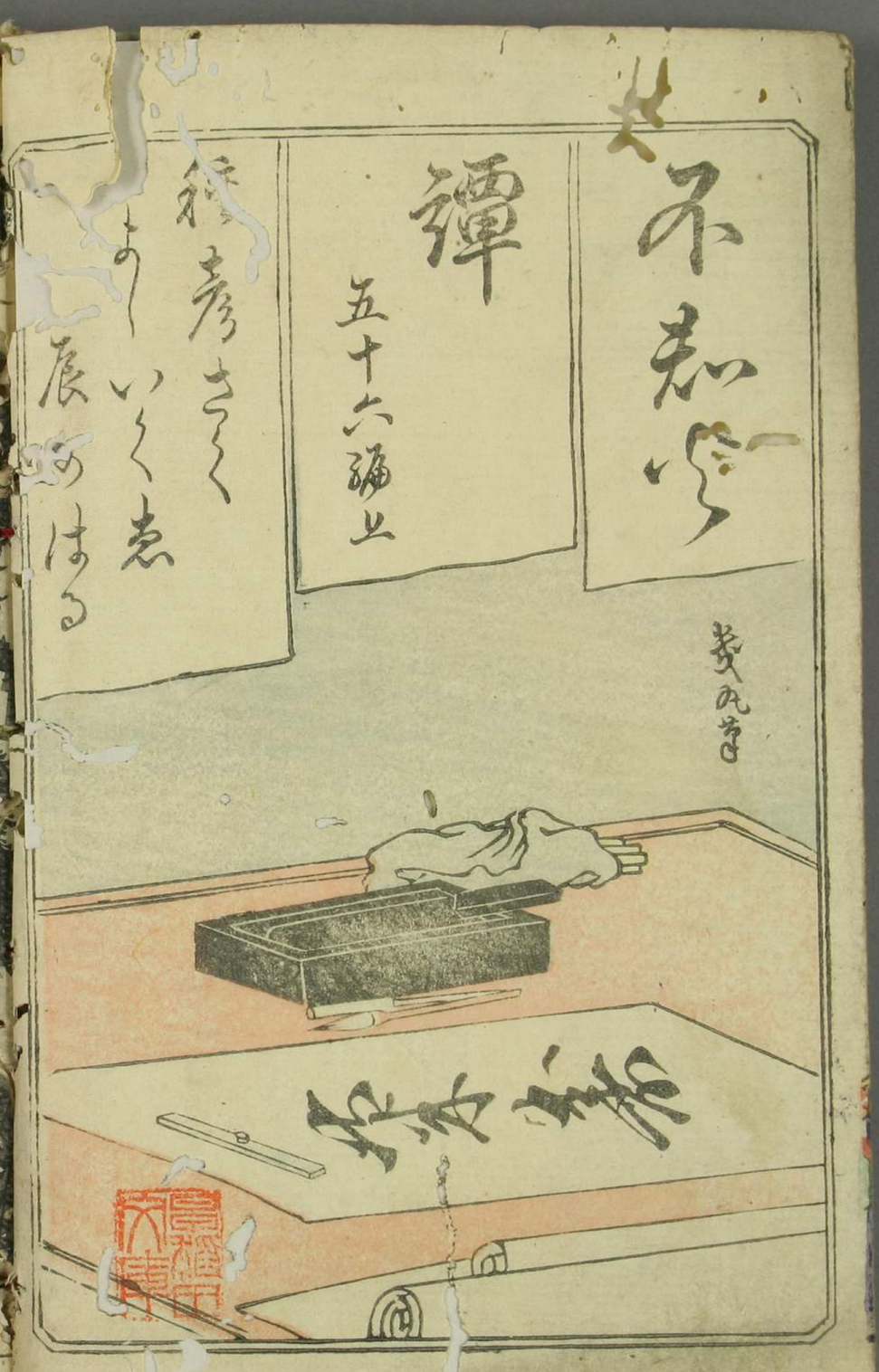
へ13
3223
37

女物語

上編六拾下

へ13特
3223
37

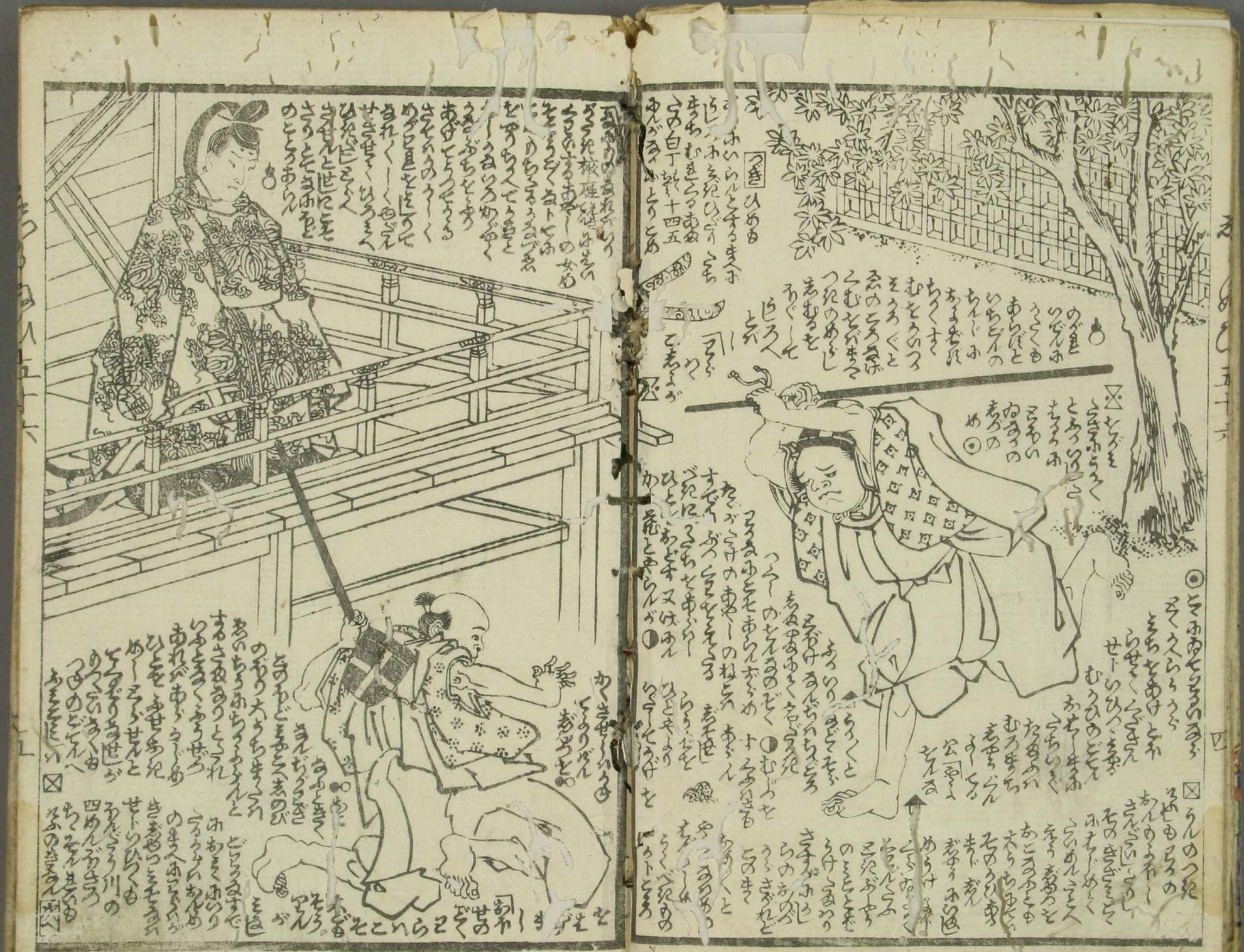
小女郎蜘蛛
三原要人女児
阿古女


不知火
彈
五十六編上
我が身さへ
よいく去
辰のはる
我が身さへ

久〻の御約束の山田河内の五人斬り笠松の枝曲り成ふ
申訳ぢろ〻ふ済〻追〻延引せ〻錦ヶ岳のぐんまろ
ぶ〻ろと沒編つ分て解く其帯再巡り會大詰い作者
ぐふいろと知ふ縫譚伏線をさへ見失ひ尾を結ぶぬ
絲の如く後〻ふ疑ひ定び隱〻ふ謎の見ゆ
御事知れ長物語の一節を世に出す者
當るとろとふ矢の字結ひ弓ゆとき方弥御貝負
厚きと地合の博多織御見物の山ふ切ぬ
慶應四　戊辰春　發兒

柳亭種彦

菊地家重宝
花形鏡
真寫圖
由来ハ
三十六員の
詳しき
ハ花形の
めくちゐ
面きーい
面白の
色と
實ハ圓し
妖い德ゐ克ずと
若



夏
秋
冬

作者 種彦
画工 芳幾

土つくぬひ繰

五拾四編ヨリ柳亭種彦作
六十編マテ一恵齋芳幾画

兩面織花田物語

初編ヨリ同
五編迄刺同
作画

假名垣八犬伝

三十編ヲ假名垣魯文録
三十五編マテ朝霞楼芳幾画

古今俳優似顔大全

故豊國公羽筆
大錦 白三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續恵齋芳幾圖

戌辰
美
種彦作
よ十弐重
彦孝板
五拾六編下

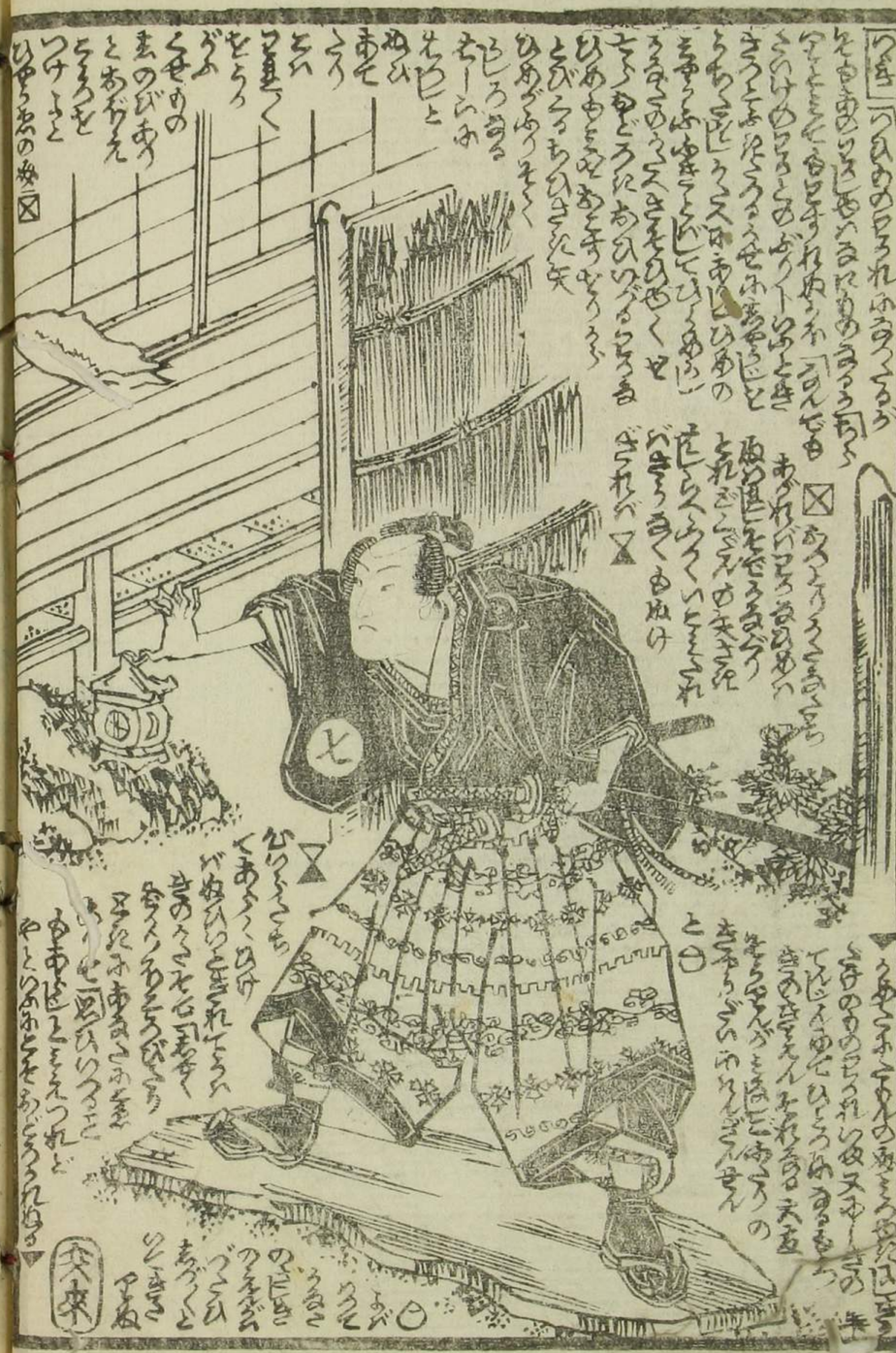
○かくとあるつの
ゑひらいあるるの
の師しまくてい
こちらしんくみも
あ地さのつとあも
あんをらけかいも
寺ドの義舟おう
さぬのビはるふ
あくらはさうとも
ひろいまゆとまと
さざあてさあふれん
そのところでくとそもれ
そこのさくめちきこと
あビいせとゆうトおひのあらひ
さざりてゆ地やあ中きの
ひとふつにおう「これいそきう
あゆビへ「あくあがのトくれ
とまらせ「あうろ
さんでらどぎん
せゆう「あゆくハ
やゆとゆのあ地
さん「あうろ
さんいとまあう
あゆのあ地ふま
ひにとくとまを
ぶんまときいとふ
ゑもとゆつれおいゆとろ

○ぶきく人「ゑとこ
きくきとゆうぶどにに
五ぐう地ちくぐ
ひとまーて
「あゆーにい
六ぐうぐらいと
きの之ふ四ぐう
のてふまちくふ
ゑんおや「ぶ
そいくくと「それい
ちゆせぐらくうと
あふーぶさんいあひ
うくふぶ六くぐう
のけいぐのゆめとの
さくりふやうきうや
「ゑんどんどうや
あまとささうこぐ
ちくくふ日ちーふ
ゑんーどちビく
ゆのひいきの
きゆく「あんが
こせゆまくく
あゆいせてあこび
のちゆ地でさう
きゆでどちこう
せいゆ日とくく
ゑちいうろうさん
きくーゆんせ「つ人

海
画きて
船を
写真
此亦一ケの画法
淡路島
紀伊国

仲秋中のところ

若
難



名譽の義士ハ
柿木金輔

名誉の孝女ハ
桔梗屋市

浪華黄金虎

三編讀切

山々亭有人 恵齋芳幾 合
梅素玄魚 松湖交來 作
假名垣魯文 河竹其水

初霞棲芳幾画

一對田方の緑に因て戯作劇場を一様に竹林あらぬ七軒人が一回五葉と持きうの合作全備の三編冊

初編 初下ノ巻 五十ページ迄 其水作 同 六十ページ迄 有人作 同 十五ページ迄 交來作

同 十六ページ迄 如皇作 二編 初下ノ巻 五十ページ迄 魯文作 同 六十ページ迄 如皇 同 十五ページ迄 芳幾作 同 十六ページ迄 其水 同 十六ページ迄 有人

三編 初下ノ巻 五十ページ迄 魯文 同 十六ページ迄 其水 如斯に持場故 定め一豆に筆力をたくし浮當藏板の ちらぬ同様御高評を希ふ

地本草紙問屋 江戸浅川佐賀町 廣岡孫幸助梓

白怒飛物語

五拾七編上

八ヵ二十年〜水る則ハ平こにて押ふ堅〜
波うつ則ハ逆怒當ふ痛〜忠孝ふ二ツ太平の
世の忠臣と富貴の家乃孝子とハ克盡せども平こうり
然うう〜て最難〜君ふ代りて戦死〜不倶戴天の仇を復せい磯うろ
波の奇態を見せ胸を冷〜〜痛むべ〜此白縫の原傳ふ夜須河某の
幼少兄弟父讐鷲掴權太〜云異ふ老漢を討餘譚あり板元これを書
加〜ていぐとの好あれが志邨が酒筒感得の話ハ十七膜稿成されと澳津
島の波高きふ似ぜ其趣い平ありや次川の水堰まて呼ぶ悲〜ふ
件少ふふねば久〜く出さぬ愁歎場を且前はて碧巖和尚の落草の
挨子と〜養老孝子ハ六十編のメトふ延〜て竜川が娼婦の因とせんさて
安川ゼ岡村ふ托せるハ巻中の人物のうぐう立消あふ世とうりうの

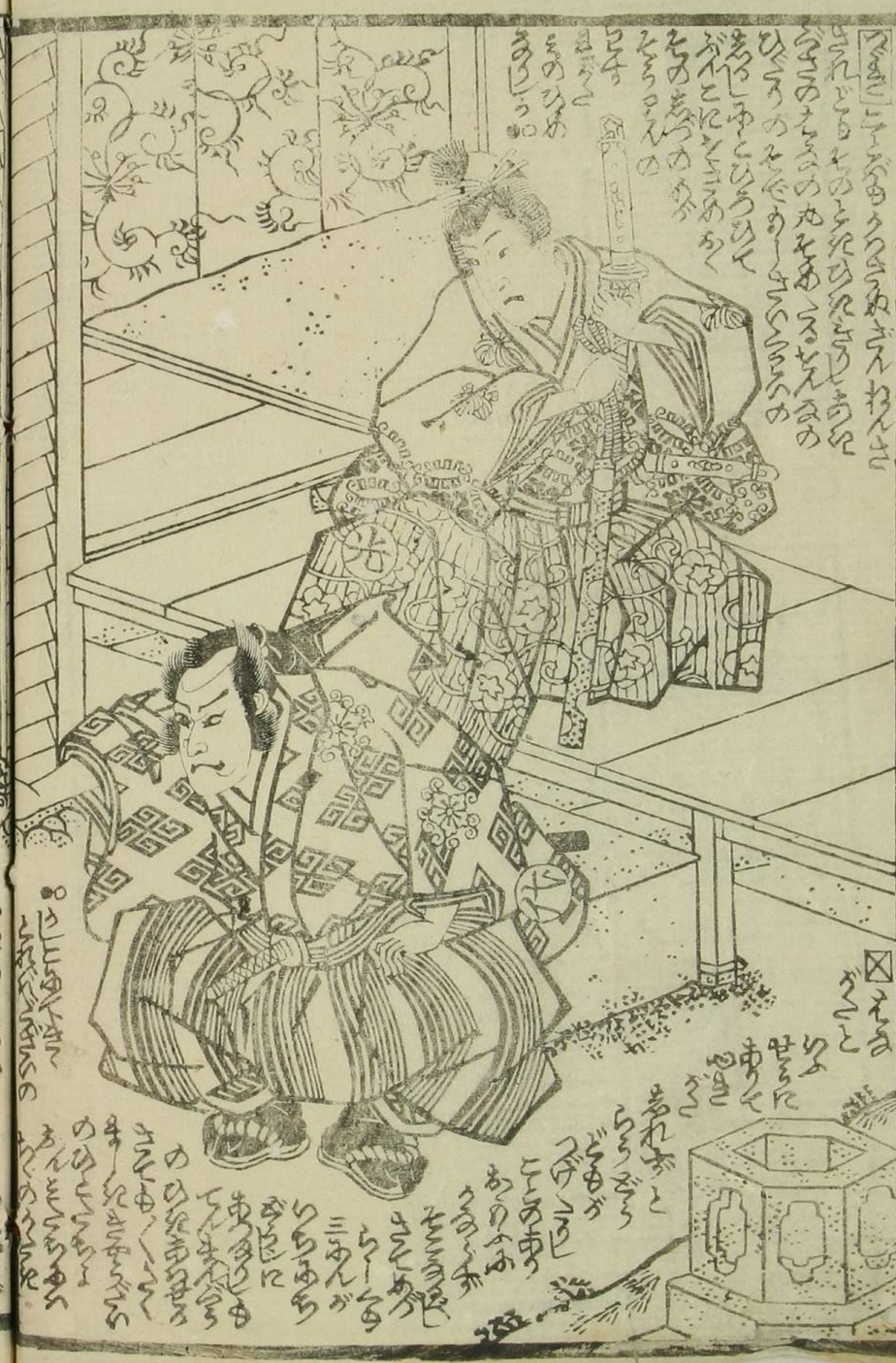
慶應四辰季春

柳亭種彦記

形管嬢
本朝女者

鹽塚豻太夫

末ゐあるべきをひにあけてむろふるもられバうり
画工の悞ゐ
あ〜べ
○此画組本文とハ
齟齬ス
拾遺集
後



死傷

柳亭種彦作
恵齋芳幾画

きゝぬひ 彈

五拾四編ヨリ柳亭種彦作
六十編マテ 一恵齋芳幾画

兩面織花田物語

初編ヨリ同
五編迄同
四同

作画

假名墨八犬伝

三十編ヲ假名垣魯文録
三十五編マテ朝霞楼芳幾画

古今俳優似顔大全

故豊國八羽筆
大錦 白三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記
百番續 恵齋芳幾画

朝霞楼
芳幾画
戊辰春
柳亭種彦作
廣岡文庫
五十七編下

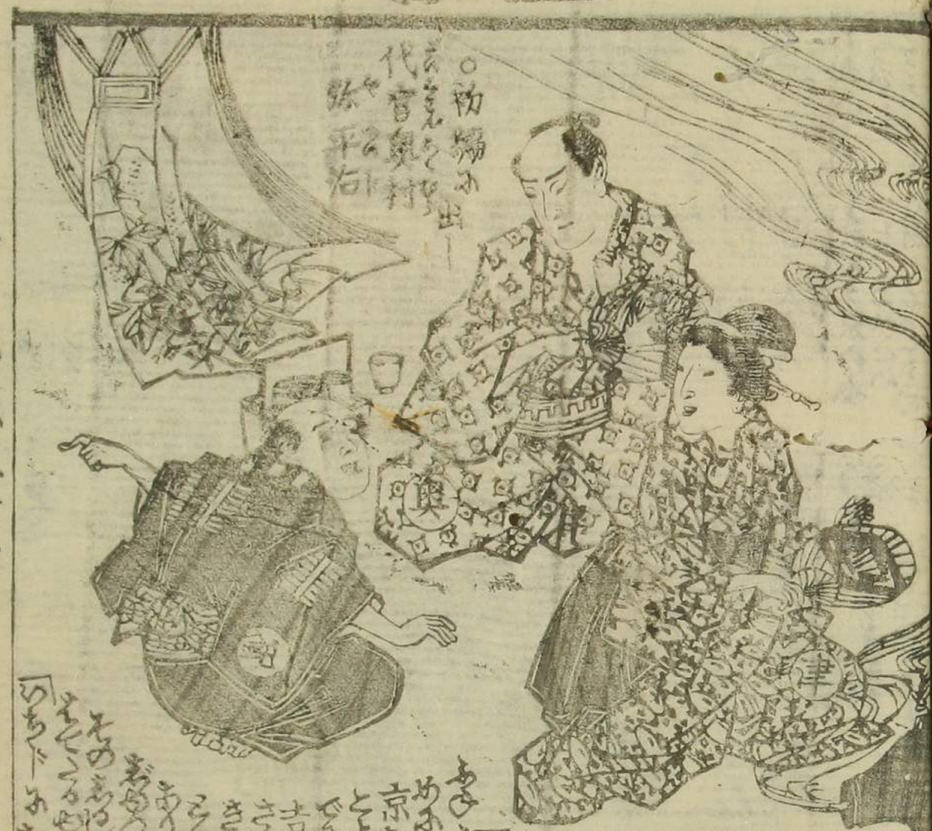
白縫譚

五拾七編

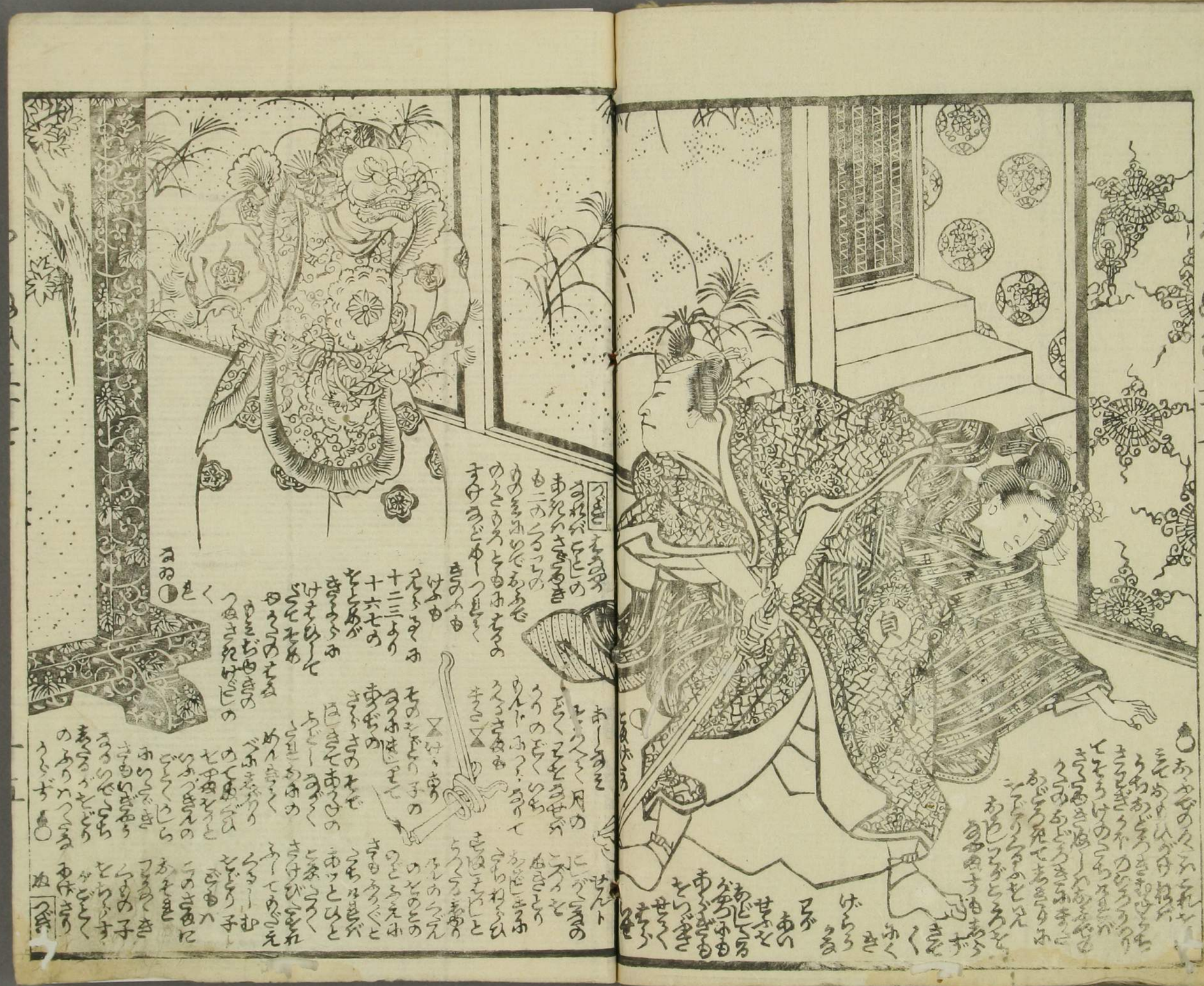
下之巻

為山人

稚彦作　芳幾画



上のうちつづき



巨勢相覺者

朝霞樓芳幾画

名響の義勇ハ
柿木金輔

浪華黄金鯱

三編 讀切 假名垣魯文作

名誉の孝女ハ
杜三豆於市

山々亭有人 梅素玄魚 松湖交來 可竹其水 合作

一對男 緑の因て戯作劇場の二様の竹林あるとぬし軒人が一回五業に持きうの合作合三備の三編冊 初編 初一冊五十丁迄 其水作 有人作同 二編 初一冊五十丁迄 曽文作同 三編 初一冊五十丁迄 如泉作同 三編 初一冊五十丁迄 魯文作同 三編 初一冊五十丁迄 如泉作同 三編 初一冊五十丁迄 魯文作同 三編 初一冊五十丁迄 其水作同 三編 初一冊五十丁迄 有人作同 定ぬ一豆ホ筆力とぼくし浮當藏板のちゞぬひ同様御高評に布ふ

地本草紙問屋 江戸浅草門仮賀町 廣圖屋 助梓